

A級指導者養成講習会 レポート

報告者：奥山 大輔（所属：清水エスパルス S S 森原）

●概要

第3コース（東海コース）会場：時之栖スポーツセンター

・前期：6/12(月)～6/17(土) 中期：9/11(月)～9/16(土) 後期：11/13(月)～11/18(土)

・受講生：24名 補助学生：中京大学サッカーチーム

・チューター：望月聰、石井知幸

●目標

11人の選手に意図的な戦術行動を行えるように、明確なコンセプトを持ち、選手に落とし込める。

（1人1人に役割を与え、チームで機能させる）

・養成目標：アマチュアトップレベルのチーム及び選手に質の高い指導ができる人材を養成すると同時に、地域・都道府県の指導者のリーダーとなる人材を養成する

・学習目標

- ① ゲーム：ゲーム中に的確に指導できる
- ② 分析：ゲーム/プレーを分析できる
- ③ プランニング：ゲームで出た課題を改善する、トレーニングを計画できる
- ④ トレーニング＆コーチング：選手のプレーを尊重しながら指導することができる
- ⑤ チームと選手の育成：選手を伸ばす事ができる、人間的に成長させられる
- ⑥ チームマネジメント：周りと協働しながらより良い環境を作ろうとすることができる
- ⑦ サッカーに関わる知識：サッカーの価値を高め、安全・安心にスポーツができる環境を作れる

●内容

・講義

前期：言語技術（三森ゆりか）、GK（大橋昭好）、分析①（プレー原則）、プランニング、コーチング

中期：フィジカルコンディショニング、分析②（ゲーム・プレーの分析）、チームマネジメント

技術・戦術トレンド（W杯TSG）、エモーショナルプロジェクト

プレゼン実習（1人10分 指導実践テーマの1つを映像やPPを用いてコンセプトをプレゼン）

後期：チームビルディング、ナショナルコーチングスタッフ講義（U20日本代表監督、富樫剛一）

口頭試験（映像30秒×3回/課題抽出、改善方法提示、具体的TRメニュー提示）

※オンライン講義 メディカル、栄養、心理学、スポーツ社会学

・実技 指導実践テーマ ※相手のシステムは1-4-4-2で想定

- ① 高い位置からの守備の改善
- ② ビルドアップの改善（高い位置からの守備に対して）
- ③ 中盤でボールを奪う守備の改善
- ④ 中盤でボールを奪う守備に対する攻撃の改善
- ⑤ リトリートした守備の改善
- ⑥ リトリートした守備に対する攻撃の改善
- ⑦ カウンター攻撃の改善

前期：TR1+TR2 25分 監督1回、コーチ1回、GKコーチ1回

中期：TR1+TR2+GAME 30分 監督1回、コーチ1回、GKコーチ1回

後期：TR2+GAME 20分 監督1回、コーチ1回、GKコーチ1回

指導実践テスト：TR2+GAME 20分 監督1回

※Logbook：前期～中期5回、中期～後期4回 高校生以上で指導実践を実施する

●学びと課題（◎自由に題目を作ってください）

A級ジェネラルでは今までの育成的観点の指導とは少し違い、コンセプトを選手にどう落とし込むのかが求められ、発問や選手に気づきを与える指導では少なく、どうプレーすべきかを明確に伝える指導が多く、改善側と非改善側、4局面、システム、エリア、試合状況、各ポジションの役割などを明確にし、5W1Hを的確に提示する指導が重要となりました。さらに、プレーの改善をする際には、1人2人の改善ではなく、その状況に対して11人全員に意図的な戦術行動を提示し改善を要求する必要があり、指導者の目線としては、ピッチ全体を捉え On the ball と Off the ball の観点、全体と細部を観察する視点が求められた。

コンセプトを考える上では、自分たちがどうプレーしたいかを考える事と同時に、相手が何をしてくるのか、相手にどうやられてしまうのかまで想定してコンセプトを考える必要があり、プランAだけでなくプランB、Cぐらいまで持つことが必要であった。

選手全員がコンセプトを理解して意図的な戦術行動を実行する為に、言語を統一する事も効果的な方法のひとつであった。例えば、使いたいスペースの名称（サイドレン、ハーフスペース、ライン間、ポケット）などをミーティングで事前に選手に伝えておくだけで、その言葉を使えば選手が自然とそのスペースを意識するようになるなど、曖昧な言葉ではなく、選手が迷わない具体的な言葉での指導の重要性を感じた。

講習会では様々なカテゴリーの指導者、選手キャリアを歩んできた指導者の方々と接する事で、指導方法や言動から多くの事を学ぶことができ、自身の指導論を構築する良い機会となりました。

●提言

- ・日頃から11対11のサッカーの全体像を考えて指導にあたる
- ・トレーニングで改善側だけでなく非改善側の視点と4局面全てを観る習慣をつける
- ・選手役として長時間のプレーとクオリティが求められる為、充分なコンディショニングの準備が必要

A 級ジェネラル指導者養成講習会 レポート

報告者：澤野建太（富士市立高等学校）

●概要

九州コース（第6コース） 5泊6日×3回

（場所）さつまゴルフリゾート

前期 5月8日（月）～5月13日（土）

中期 8月28日（月）～9月2日（土）

後期 11月13日（月）～11月18日（土）

●内容

・講義

前期：言語技術

ゲーム分析①+プレーの原則

GK 講義

プランニング

コーチング

※ 最終日に筆記試験あり

間の学習：栄養学

スポーツ社会科学

メディカル

スポーツ心理学

※ zoom での講義を4回行う

※ それぞれ出された課題に対してレポート提出

中期：フィジカル コンディショニング（実技あり）

セットプレー

チームマネジメント

技術・戦術的トレンド（ワールドカップ TSG）

ゲーム分析②

プレゼン実習試験 ※中期までに各自スライドを作成し自分のコンセプトを説明

後期：ナショナルコーチングスタッフ講義

チームマネジメント

口頭試験（動画を見た後にプレーの問題点と改善のためのTRを考案する）

※ 最終日に筆記試験あり

・実技

<7テーマ>

① 前線からボールを奪う守備の改善

② 前線からボールを奪う守備に対する攻撃

③ 中盤でボールを奪う守備の改善

④ 中盤でボールを奪う守備に対する攻撃の改善

⑤ リトリートした守備の改善

⑥ リトリートした守備に対する攻撃の改善

⑦ カウンターアタックの改善（自陣に引き込んでから）

指導実践 前期 1回 【TR1-TR2】

間の学習 最低 5 回の指導実践を行い、そのうち 2 回を S 級・A 級保有者に見てもらう

中期 1回 【TR1-TR2-Game】

間の学習 最低 4 回の指導実践を行い、そのうち 2 回を S 級・A 級保有者に見てもらう

後期 2回 【TR2-Game】 ※ 2 回目は最終試験

※ 前期・中期・後期それぞれで監督役・コーチ役・GK コーチ役を 1 回ずつ行う

※ 最終試験は 1 人ですべて行う

●学びと課題

A 級ジェネラル講習会では、前期で自分自身の明確なサッカーコンセプトを持つことが求められる。そして、中期になるとそのコンセプトを落とし込むことが求められ、後期ではさらに、フィールドの 22 人 1 人 1 人にタスクを与え、意図的な戦術行動を起こすことが求められる。メンバー（22 人）も自分自身で選び、フォーメーションを考え、選手の運動量も考えて全体をコントロールしていく。B 級との違いに最初は驚かされた。問い合わせで答えを引き出すこともそうだが、どちらかというと、選手にタスクを実行させるためにどう指示を出すかを考えることが多かったように思う。自分はまず、コンセプト自体があいまいで、それを明確にすることに苦労した。そして次に、それをどう選手に落とし込み、意図的に戦術行動を起こさせるのかにも悩んだ。しかし、この講習会の特徴でもある「全員で作り上げる講習会」に助けられた。開校式の時にオープンマインドの姿勢を持ち、皆さんで作り上げていきましょうと言われた。講習会には元日本代表選手、元プロサッカー選手、フィジカルコーチ、教員、クラブチームスタッフなど様々な立場の指導者が参加していた。受講生が積極的に意見交換やアドバイスをしあうことで、自分の世界だけでは思いつかないアイディアや指導法に接することができた。チューターからのアドバイスや、受講生からの意見を基に、自分のコンセプトを少しは明確に持つことができたようだ。コンセプトを明確にすることで、プレーの見方が変わり、より多くのものを見れるようになってきた。間の学習でも様々な方に指導実践を見ていただいた。前期、中期、後期と少しづつ積みあげていき、指導が自分でも変わってきたことを実感できた。3 人で指導を行うため、指導者同士のリレーションの重要さも再確認することができた。指導実践を行っていく中でやはり大切な感じたことがいくつかある。そのうちの 3 つを上げさせていただくと、1 つ目は、プレーさせることの重要さである。見えるものが増えたことはよかったです、それを伝えようと話しそぎてしまった。結果、うまく現象を起こすことができなかった。やはり、選手はプレーしたくて、プレーすることでうまくなるのだということを再確認できた。コーチングは「Quick simple to the point」。プレーさせて、いいプレーであれば褒めてジャッジする。今後も指導するときは頭に置き続けたい。2 つ目は、非改善チームへの働きかけである。改善チームに現象を起こさせるためには、裏のテーマをしっかりと構築することが重要である。非改善チームの構築が浅いと、確かに改善チームはうまくいっているように見えるが、それでは意味がなく、改善チームを困らせた状況を作り、それを指導で改善していくということが大切だと学んだ。そして、そのための指導力を持たなければならないと感じた。3 つ目はプランニングである。Wp から TR1、TR2 と積み重ねたものが Game で出ることが重要である。そのために、Game から逆算し、何を切り取って落とし込むのか、切り取ったことで何を失うのかまで考えなければいけない。オーガナイズの重要さを改めて感じることができた。これ以外にも様々なことを学ばせていただいた。まだまだ自分が力不足であることを痛感させられた講習会であったが、それ以上にさらに自分自身もさらに成長し続けなければいけないと感じることのできるとても貴重な時間だった。今後も学び続けていきたいと思う。

●提言

講習会ではプレーヤーとしても多くの時間を過ごすことになる。プレーヤー目線でしかわからないこともある。その為に、より良いコンディションで講習会に挑むことが大切だと思う。また、今まで自分が築いてきたものに固執するのではなく、自分を俯瞰的に見て、様々なことを吸収することでさらなる成長につなげられるのではないか？と考えさせられる講習会でもあった。この機会を与えてくださった方、また、講習会に関わっていただいたすべての方に感謝しています。ありがとうございました。

B 級コーチ養成講習会 レポート

報告者：大石 淳真（浜松啓陽高等学校）

■目的（事業：2023 年度日本サッカー協会公認 B 級コーチ養成講習会 JFA コース）

- ・サッカーの原理・原則を理解し、言語化された具体的なコーチングを獲得する
- ・様々な経験や経歴をもった指導者とかかわりを持ち、自身の引き出しを多く持つ

■流れおよび全体像

前 期：6月5日～6月9日（座学と指導実践を通してテーマ理解を深める）

後 期：9月18日～9月22日（指導実践を中心とする実践トレーニング）

試験期：11月6日～11月8日（口頭、筆記、実技試験）

[講義]

プレー分析、サッカーの基本戦術、プランニング、コーチング、フィジカルコンディショニング、チームマネジメント、セットプレー、スポーツ倫理、GK、審判、FIFA World Cup Qatar 2022 TSG 報告

[実技]

8 テーマ

攻撃の個人戦術、ビルドアップ、中央突破、サイド攻撃

守備の個人戦術、中盤の守備、ゴール前の守備、クロスの守備

[間の学習]

- ・S, A 級ライセンス保持者に指導実践を 2 回見てもらい、コメントをもらう
- ・スポーツ医学、スポーツ心理学、スポーツ社会学、トレーニング科学、栄養学の試験とレポート課題
- ・8 テーマのプランニング
- ・試合分析

■課題の発見と分析

現在、最も獲得したい力は次の 3 つである。「プレーの理解と分析力」、「言語化された具体的なコーチング」、「根本的な改善となる指導」である。抽象的でプレー後のコーチングは、指導者が求めているものと選手の理解でギャップを生む可能性がある。そのため、指導者はワンプレーの中でプレー前、プレー中、プレー後の 3 つの局面に分けること、オンの選手とオフの選手をよく観察し、整理してあげることがギャップを埋めるために必要となる。これらが指導者の中で整理されていれば、言語化された具体的なコーチングの第一歩となり、根本的な改善となる指導への近道になると考える。

今後、私自身はレベルの高いプレー経験がないため、様々なカテゴリーの試合やトレーニングに多く触れて自分のものにしていきたい。

■提言

今回の講習会を通して、非常に貴重な学びの場を経験することができた。幼いころ、テレビの画面越しにから応援していた W 杯出場経験がある選手をはじめ、1 種から 4 種までのカテゴリーで活躍されている方との学びの時間は、刺激的でフレッシュな気持ちに溢れた合宿期間であった。サッカーの理解とともに指導者として大切にていきたいことも整理された。毎日サッカーに没頭し、自らの考えを受講生同士で議論して指導実践で失敗する。そんな繰り返しの作業は、大人になった今では経験することが少なく感じる。これらの失敗から多くのことを学ぶことができた。さらに、B 級コーチ養成講習会静岡県トライアルから多くの人の支えがあって受講、取得することができた。感謝の気持ちをもち、いつかは自分が与えてもらったものを与えられるような指導者を目指していきたい。今後も、アップデートされた自分と出会っていきたいと思う。

B 級指導者養成講習会 レポート

報告者：辻 俊行（藤枝明誠高校）

◇ 期 間（第1コース・関東）

前期：2023年 7月 3日（月）～ 7月 7日（金）

後期：2023年 9月 11日（月）～ 9月 15日（金）

試験期：2023年 11月 13日（月）～ 11月 15日（水）

◇ 会 場 鹿島ハイツスポーツプラザ

◇ JFA チューター

手倉森 広吏 氏・土橋 正樹 氏

◇ 内 容

< 講 義 >

分析（プレーの原則）・プランニング・言語技術・サッカーの基本戦術・コーチング・フィジカル・GK・スポーツ倫理・技術、戦術のトレンド（TSG 他）・審判・セットプレー・チームマネジメント

< 実 技 >

攻撃の個人戦術（パス＆サポート）・守備の個人戦術（チャレンジ＆カバー）・ビルドアップ・中盤の守備・中央突破・ゴール前の守備・サイド攻撃・クロスの守備

< 試 験 >

指導実践・口頭試験・筆記試験

< 課 題（レポート）>

事前課題：実技8テーマの指導案作成、試合分析（2試合分）と自己分析シート

共通科目：「スポーツ医学」「スポーツ心理学」「スポーツ社会科学」「トレーニング科学」分野において、レポート課題及び試験。

間の学習：前期から後期までの期間に実技8テーマのLogbook作成、及び指導実践（S級もしくはA級ジェネラルの方に攻守1テーマずつの2テーマを観てもらいコメントをもらう）・試合分析（2試合分）。

◇ 所 感

様々な地域から違う種別の指導者が集まり、サッカーに没頭できた日々は私にとって非常に新鮮であり、多くの学びを得ることができたと感じている。今回のB級指導者養成では前期、後期、試験期と3回に分けて活動し、グループに分かれてトレーニングのプランニングを行い、受講者のトレーニング後にチューター、受講者が意見交換をした。そのなかで様々な指導者のサッカーの考え方や、トレーニングの構築、分析、コーチング等を学ぶことができた。講習会を通して学んだことを、現場に戻って整理していく作業が私自身とても楽しく、少しづつではあるが指導者として力が付いてきているという感覚を得ることもできている。今後、自チームでの活動を通じて、講習会で学んだことを試行錯誤を繰り返しながら整理し、少しでも選手に還元できるような指導者になりたいと考えている。

今回、参加した関東コースでは、バイタリティに富んだ人が多く、活発な意見交換や、馴れ合いでない良い雰囲気の中で講習会を行うことができた。このような機会を与えてくださったサッカー協会の皆様、一緒に講習会を創りあげてくださったテグさん、土橋さん、補助学生、参加者の皆様、ありがとうございました。

B 級指導者養成講習会 レポート

報告者：小柳 雅紀（島田樟誠高等学校）

●概要

前期 : 05月08日(月)～12日(金) 4泊5日
後期 : 10月16日(月)～20日(金) 4泊5日
試験期 : 11月27日(月)～29日(水) 2泊3日
会場 : 和倉温泉多目的グラウンド（石川県七尾市石崎町部32番地1）
チューター：木村 康彦氏・西嶋 弘之氏 大橋昭好氏（GK 講師）
指導教本は JFA サッカー指導教本 2020 を利用

●内容

・事前課題

①指導案作成

「攻撃の個人戦術（パス&サポート）」「守備の個人戦術（チャレンジ&カバー）」「ビルドアップ」
「中盤の守備」「中央突破」「ゴール前の守備」「サイド攻撃」「クロスの守備」 以上8テーマ

②試合分析 2試合

③自己分析

・間の学習

①指導案作成

8テーマ⇒2テーマはS級もしくはA級保持者に指導者に指導実践を見てもらいコメントをもらう

②試合分析 2試合

③E ラーニング

「スポーツ医学」「スポーツ心理学」「スポーツ社会学」「トレーニング科学」4分野の試験とレポート

・講義

「プレーの分析」「フィジカル」「プランニング」「サッカーの基本戦術」「言語技術」「コーチング」「映像分析」「技術戦術的トレンド」「TSG」「審判」「スポーツ倫理」「チームマネジメント」「GK」「セットプレー」

・実技

8テーマ+ゲーム、GK、セットプレー、フィジカル

●学びと課題（

2023年度 JFA 公認 B 級コーチ養成講習会北信越コースに参加させていただいた。全国から集まつた指導者の皆さんから多くの刺激と学びを得た。違う種別の指導をされている方の声かけや、オーガナイズ、マネジメント等お話を聞けてすごく参考になった。指導実践では、改めてプランニングの重要性を感じた。プランニングの時点で改善したいテーマを明確にして、細かく整理をしてから現場に立たないと、トレーニングが破綻してしまう。サッカーの原理原則や4局面等自分の中を整理してからこれからのトレーニングを行っていきたい。講義では、自分の中で言語化されていなかったことが、定義され整頓されたと感じる。プレーやゲームの分析において、4局面や個人の技術などフォーカスするところを具体的にして実践していきたい。

最後に、トライアルから受講後までお世話になった関係者の皆様、北信越コースの受講生の皆様、チューター・補助スタッフの皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

B 級指導者養成講習会 レポート

報告者： 東間 勇氣 (浜松シティ FC)

●概要

日程 前期 6月5日（月）～6月9日（金）
後期 9月18日（月）～9月22日（金）
試験 11月6日（月）～11月8日（水）

会場 時之栖

講師 大畠 開 氏・大橋 浩司 氏

●内容

・講義

プレー分析、サッカーの基本戦術、コーチング、プランニング、フィジカルコンディショニング、
言語技術、スポーツマネジメント、セットプレー、GP（ゴールプレイヤー）、審判

・実技

攻撃の個人戦術、守備の個人戦術、ビルドアップ、中央突破、ゴール前の守備、サイド攻撃、
クロスの守備、中盤の守備

・間の学習

スポーツ医学・スポーツ心理学・スポーツ社会学・トレーニング科学、

栄養学の試験+レポート提出

試合分析（2試合分）

指導実践

プランニング（8テーマ）

●学びと課題

私は JFA B 級指導者養成講習会東海コースに参加させていただいた。

代表経験のある方や、Jリーグで活躍された方、各カテゴリーの指導者の方々が受講されていたため、いろいろなサッカーに対する考え方があり勉強になった。

実技では指導後にチューターの方にフィードバックをしていただくことで再確認できることや新たな気づきがあり課題が明確になった。

間の学習では指導実践で自身の長所と課題を指摘していただけたことで今後の指導への取り組み方をイメージすることができた。

今回の講習会を通して感じたことは、より早いスピードでプレーを分析する力を持つことはもちろんだが、的確なタイミング、的確な方法（フリーズ、シンクロ、ミーティング）で選手に伝えられることが重要だと感じた。

そのためには現場（トレーニングやゲーム）での経験を多くいろいろなカテゴリーのプレーを肌で感じることが必要だと感じた。

最後に今回の講習会でお世話になった関係者の方々、ありがとうございました。

■目的（事業：2023 静岡県 A 級トライアル及び東海トライアルでの現状や課題を整理し報告する）

■分析対象 静岡県A級トライアル参加者（17名）⇒ 東海トライアルへ（6名）
3名が2024年度JFA公認A級養成講習会に参加

■流れおよび全体像

静岡県 A 級トライアルに関しては、12月2日（土）エコパ人工芝 G にて行った。6名の枠に 17 名が参加した。例年以上の参加希望者がおり、午前・午後に分けて参加者全員に対して指導実践を行った。2回目、3回目のチャレンジの方も多くいた。

（1種：2名、2種：5名、3種7名、4種：2名、女子1名）

指導実践では、現在の B 級のテーマである①ビルトアップ②中盤の守備③中央突破④ゴール前の守備⑤サイド攻撃⑥クロスの守備の 6 つのテーマから各自が 1 つのテーマを決め、各自がプランニングしてきた TR2 と GAME（合計 15 分）を行った。選手役は、午前、袋井高校、午後、掛川東高校の選手が行った。

■課題の発見と分析

指導実践では、C, B 級で扱ってきたテーマの理解、サッカーの目的、4 局面がある、プレーの原則の理解が土台となる。テーマに合ったオーガナイズを作成した上で、TR2 と GAME の中でコーチングをしていきたい。この部分が曖昧だとテーマから外れた指導や攻守のないものになってしまふ。例えば、『中盤の守備』であればセンターラインを基準にして前の選手の守備のラインを提示した上で積み上げていきたい。その提示がないと前からのプレスになってしまうこともあります。そうなれば『前線からの守備』となる。また、『サイド攻撃』では、クロスの攻撃だけでなく、クロスオーバーやインナーラップ、ポケットへの侵入、ドリブル突破からのクロスなどサイドを生かした攻撃を整理したい。さらに攻撃・守備のテーマであってもその裏側も意識したコーチングを行えるとよい。例えば、ゴール前の守備では、ゴール前のシュートや崩しのシーンが出るように攻撃側への働きかけがあるとバランスがよくなる。

「現象を分析し、原因を発見し、改善すること」「基準を示し、課題を与え、選手に思考させる」「シンクロでジャッジ（褒めたり、投げかけの言葉を使う）すること」ができるとトライアルの通過に近づくと感じました。特にシンクロでのプラスの言葉がけは、短時間の指導実践においては選手のモチベーションを高めることにもつながり重要です。

オーガナイズもシンプルな TR2 の中でプレーさせながら、シンクロとフリーズを活用しながら基準の提示をし、改善させながら積み上げていきたい。特に TR2 での落とし込みが甘いとゲームでもフリーズする場面が増えてしまいます。ゲームの中ではシンクロを中心に（ジャッジ）していきたいところです。クラリティとリアリティのバランスの観点からも TR2、GAME ではリアリティのある中で（6 対 6～8 対 8）位のオーガナイズで 2 つのゴールを付けるか、1WAY の形でのオーガナイズが 15 分～20 分の指導実践では指導者も選手もやりやすいのではと感じました。東海トライアルでは、3 ラインを形成したゲームに近い TR2 をやられた方が多かったです。

■トピックス

A 級トライアルに関しては、B 級→A 級である為、（サッカー全体像の理解に加え、3 人称（OFF の選手）、攻守、切り替え）の B 級レベルをクリアされているかが評価のポイントとなる。オーガナイズの工夫、指導力としての（分析・改善・発展・個別指導・視覚化・動機付け）等を意識しながら指導実践を行う。限られた時間（15 分～20 分）でかつ緊張を伴う中での TR2→GAME になるので、コーチ自身が決めたテーマの中でサッカーをさせて、何を獲得させたいかの基準を示すことが選手も生き生きとプレーでき、重要となると感じました。

■ テーマ理解（例）

【ゴール前の守備】

イメージはリトリートした守備。3ラインをコントロールした中で、相手（攻撃）を引き込んだ中での守備。A級のテーマでは『リトリートした守備の改善・カウンターアタックの改善』がある。守備から攻撃の部分まで（4局面）コーチング出来たらすばらしい。攻撃側への働きかけから、守備のキーファクターを抑えていく。中央を閉めさせ、サイドに展開された際のスライドや逆サイドの選手のポジショニング。GKとの連携も触れながら、強固な守備を構築させていく。特にチャレンジの部分からカバー・スライドを整理していきたい。説明中心にならず、ボール状況に応じたポジショニングとボールを奪うことを獲得させたい。奪うために必要な要素や役割もデモで示せると良いと思います。また、攻撃側には足元と背後の狙いを提示し、その中で選手が判断し、決断した中でボールを奪うように促したい。

【サイド攻撃】

攻撃は中央を攻める、守備は中を閉める。その中でサイドを活かした攻撃を構築させ、優先順位を整理する。クロスボールだけでなく、クロスオーバーやインナーラップ、ポケットへの侵入、ドリブル突破からのクロスなどのバリエーションを引き出す。サイドからのクロスボールに入る際のポイントの整理。簡単に攻撃が進むようなら守備への働きかけも行う。

【中央突破】

中央を攻める。2FWを中心にお互いを観ることと、トップ（中央）の足元と背後を狙っていく。相手守備陣が中央を閉めているので、サイドへ展開し中へ差し込む縦パスからの中央を崩していく形もある。TR2で現象を抑えていく、ゲームへつなげていく。FWだけでなくお互いが相手と味方を観る中でフリーとなり、中央のギャップをつきながらサポートして攻撃をしていく。

■ 提言（東海A級トライアルに向けて）

- オーガナイズの工夫（シンプルな設定、幅と深み、背後のスペース、人数、ゴール）
TR2 から GAME のつながりを持たせる
- テーマ理解＆オーガナイズ 現象を出す働き掛け
- 基準を示す→提示しジャッジする・褒める・更に要求する。積み上げていく流れをつくる
- 質（クオリティー）への追求（デモンストレーション）
※東海では質の追求をされる方が少なかった
- 守備・攻撃への働きかけ（裏側）

※2024年度はA級トライアルに向けたスキルアップ研修と県トライアル通過者を対象とした指導実践研修会（2月）を計画しています。また、各地区的47FAチューターやA級取得者に県トライアル、東海トライアルまでに指導実践を見てもらうことを勧めます。

報告者：武田 直隆（静岡市立高校）